

2023 直前期過ごし方セミナー

(学習編)

2023 ver1.0

2023 年 6 月

(直前期過ごし方セミナー)

TAC 公認会計士講座

合否分析・個人成績管理責任者

久野元靖

【直前期過ごし方セミナー】

I 2023 論文式試験合格に向けて

1 第1回論文式全国公開模試 の成績

- ・ ABCDE判定は、第1回論文式全国公開模試時点での合格可能性を示しています。受験母集団のことを指摘される方もいらっしゃいますが、判定基準得点比率は受験母集団の質的相違を考慮しています。また、論文式試験合格得点比率 52%は変化しない（2020 年試験は 51.8%，2021 年試験は 51.5%，2022 年試験は 51.6%でしたが）という前提ではありますが、かなり厳しい（1ランクぐらい厳しい）評価をしています。

2 直前答練

- ・ 多くの方の成績は乱高下しています。成績の変動は気にしないようにしてください。準備万端のものもあれば準備不足のものもある状態で受験した時点での成績です。準備万端にもかかわらず低い成績の場合は要反省・原因分析・修正行動が必要です。

3 第2回論文式全国公開模試 の成績目標

- ・ 自身の満足水準、例えば、得点比率 60 水準とか得点比率 55 水準とか得点比率 52 水準とか、あたりにどの「科目」もバランス良く揃えることを目標としてください。また、「同一科目内大問間」での得点比率の格差があまりなくバランスが良いことも目標としてください。得点比率は大問単位で算定をされます。不得意な論点を作ったり、根拠のない判断をして学習範囲を狭めたり、あるいは、試験時間中に欲を出して時間配分を誤ることによって、できなかった大問で実力以下の評価をされないように心がけてください。

4 第2回論文式全国公開模試 受験前の期間

- ・ 直前答練に対する準備と自身のスケジュール（例えば、第2回論文式全国公開模試までに仕上げたい、ひいては論文式本試験を見据えたスケジュール）とのどちらを優先するのかについては、ご自身の成績レベル・学習スケジュールの進捗次第でしょう。

順調にきているし、第1回論文式全国公開模試後、修正行動も取れたし、5月一杯までにまた仕上げた感がある方は、今までの蓄積で直前答練に向かうことができますし、直前答練ごとにいわゆる「回す」ことが可能でしょう。それを積み重ねて、第2回論文式全国公開模試までにまた仕上げてください。

まだまだやり残したことがあるし第2回論文式全国公開模試までに仕上げられるかどうかわからないって方は、直前答練は割り切ってもいいのではないですか（ex.準備は本試験当日同様の1時間限定とかです。欠席を意味しているわけではありません。）。直前答練に対する準備を含めたスケジュールに四苦八苦するよりは、第2回論文式全国公開模試までに仕上げることを優先してください。

また、論文式試験最直前期には全科目全分野いわゆる「回す」ことをされると思いますが、何日？何週間？必要ですか。できれば第2回論文式全国公開模試前に予行演習してみてください。それを踏まえれば、論文式試験前に「回す」期間がどれだけ必要か見えてきます。

A 6月

(a) 順調に進んでいる方

出題範囲指定のない直前答練に対して「回転して受ける」が実現できると思います。

(b) まだまだ気になる分野が残っている方

気になる分野の穴埋めを優先するべきでしょう。「1日も早く回転できる状態を達成する」ことが目標ですし、第2回論文式全国公開模試までに達成しなければならない目標です。

(c) 遅れていると自覚している方

第2回論文式全国公開模試までに遅れは取り返してください。

せめて、第2回論文式全国公開模試までに、触れるべき部分は吸収してください。

やり残したことがない状態にはしたいですね。

それで、各科目の学習時間等のバランスが崩れるのは仕方ないことですが、順調な科目の維持は忘れないようにしてください。

5 第2回論文式全国公開模試 受験後の期間

- ・ 全国公開模試受験直後の感想はメモしておき、直感的に修正が必要だと思われるものは早急に修正行動をとってください。修正行動をとった後は早めに通常スケジュール（「バランス」が良い結果が残せるためのスケジュール）に復帰することを意識してください。

6 第2回論文式全国公開模試 成績公表後の期間

- ・ 受験時に残しておいたメモと式全国公開模試成績とに違和感があった場合には、もう一度、内容確認をしてください。採点済み答案が必要な場合にはそれを待ってからでも構わないでしょうが、早めにケリをつけて通常スケジュール（「バランス」が良い結果が残せるためのスケジュール）に復帰することを意識してください。偏った学習をするよりは「バランス」良い学習を心がけたほうが良い結果につながるでしょう。

今まで学習してきたことが全て論文式試験の3日間によどみなく出せれば合格できますよね。その状態を作るために回してください。

- ・ 「バランス」をとることが苦手な方は、学習内容（ないし時間）を決めるのも一つの方法です。計算は毎日アクセス1回分とか、この科目は2時間とか。毎日全科目なのか3日ないし数日で全科目なのかといったことも良く聞きますが、個人の性格だと思います。

B 7月

(a) 順調に進んでいる方

出題範囲指定のない直前答練に対して「回転して受ける」が実現できると思います。

気になることが出現すればその都度解消してください。

おそろしくつまらない日々になるかもしれませんが、合格する方は皆さん耐えています。

(b) まだまだ気になる分野が残っている方

気になる分野の穴埋めを優先するべきでしょう。

「1日も早く回転できる状態を達成する」ことが目標ですし、出題範囲指定のない直前答練に対して、せめて、最終回は「回転して受ける」ことを目標としてください。

(c) 遅れていると自覚している方

第2回論文式全国公開模試までに触れるべき部分は吸収できたことを前提として、7月中に全科目の再確認をするべきです。各科目のバランスを意識してください。もし、論文基礎答練・応用答練等出題範囲指定のある答練が残っている場合には、それを自身のペースメーカーにするのも一つの方法です。

C 8月

今まで学習してきたことが全て論文式試験の3日間によどみなく頭から出せれば合格できるだけのことをしてきたはずです。その状態を作るために回してください。

7 論文式試験

- 計算について、「答練のような指示がない」ことがあることを知っておき、その際にどういう対応をするか決めておくことが望ましいでしょう（現実的適正な判断）。
- 理論について、設問に対し「素直に丁寧に答案を作成する」ことを意識してください。
問題文を読んだ瞬間「もらった！」と感じたら、あるいは「答練で出ていた！」と感じたら、「論点ズレ」の第一歩かもしれません。冷静に問題を読み返してください。

8 気にかけてほしいこと

- 得点比率の採点は「大問」ごとに行われています。この採点方法が示唆することは「穴を作るな」ということですし、また、試験時間中の適切な時間配分も求められています。苦手な分野を克服してください。でも「完璧」が求められるわけじゃない。得意でない分野は論文式試験受験者の中で「平均点」が確保できれば良いという感覚でOKです。
- 自身で後れを認識している「租税法」「選択科目」にとことん注力される方がいらっしゃいます。それはそれでやらなきゃいけない。しかし、短答式試験合格レベルにある他の科目の力を維持することを忘れないでください。油断すると、場合によっては油断しなくても、自身の想像以上に力が落ちていきます。
- 受験勉強というのは「インプット」を大前提として「アウトプット」にたどりつくことだと考えています。
「アウトプット」とは「公認会計士試験」の「計算分野」は「会計的資料を読んで会計的判断をして数値を求める」こと、「短答理論分野」は「記述の正誤判定」，「論文理論分野」は「問われている事項を説明すること」だと考えています。それぞれが「自習時間」に入ってきていますか？

● 公開模試の結果と本試験の結果

試験種別	公開模試結果の一例	本試験の結果の一例	直前期学習の推測ないし面談内容
論文式試験	総合C判定 各大問はB～E判定	合格	E判定科目の底上げを中心に学習したが、当該科目に集中しすぎることなく学習
論文式試験	総合C判定 監査のみE判定、他科目はA～C判定	不合格 監査科目合格	監査さえ良くなれば合格できるとの思いが強く集中したが、他科目が想定以上に低下
論文式試験	総合C判定 租税法・選択はD～E判定、他科目はB～C判定	不合格 租税・選択科目合格 監査で足切り	租税・選択の出遅れを挽回すべく集中したが、他科目が想定以上に低下
論文式試験	総合ED判定 全科目総合判定と同水準	合格 合格者中順位170番前後	全科目底上げ目標でテキストを中心にバランス良く学習。平均点で良いから「素直に丁寧に」答案を作る。
論文式試験	総合BB判定 財務・管理・租税・経営の計算関連科目でA～B判定 理論系はC～D判定	不合格 監査・企業は55前後の得点比率 計算関連大問で40台前半	理論科目・理論分野を中心に学習。計算分野について、実際に問題を解いておらず、「目視」で解いていた。

上表の内容は極端な例かもしれませんが、現実起こった決して珍しくない例です。通常の答練の成績推移を見ても、当該答練の直前に重点的に学習した科目の偏差値・得点比率が高くなり、重点科目を他科目に移すと偏差値・得点比率が低くなるという傾向のある受験生は多くみられます。このような受験生の場合、自身が学習とその成果の関係に敏感であることを意識し学習スケジュールを組み立てる必要があります。

今まで積み重ねてきた学習内容は合格水準に達している、ないし、短答試験に合格したのでですから基本的には論文試験で勝負できる水準だと考えています。

今までに積み重ねてきた学習内容が本試験当日によどみなく頭からでてくればきっと合格できます。

本試験当日に、

今までに積み重ねてきた学習内容がよどみなく頭から出てくる状態を作ること

が最直前期の目標になります。